

株式会社徳島大正銀行



case 5

人、地域、社会を笑顔で満たす



事業所データ

所在地：徳島市富田浜1丁目41番地
 電話番号：088-623-3111
 設立：1918年
 従業員数：1,389名（男性748名・女性641名）
 事業内容：銀行業

事務部 副長 **角田 愛子**さん（勤続13年）



平成22年 入行、徳島市内店舗に配属後、渉外^{※1}（営業担当）として2店舗勤務
 平成28年 大坂市内店舗にて法人渉外^{※2}を担当
 平成30年 結婚、出産、育児休業取得
 令和1年 貸付担当者として職場復帰
 令和4年 支店長代理として内勤業務を担当
 令和5年 現職（本部勤務となる）。現在、夫は単身赴任中、5歳の子供と同居。
 ※1 渉外＝外訪し、営業する係の名称
 ※2 法人渉外＝法人向けに融資・ソリューションを営業する係の名称

これまでの経歴・体験談など
 入行当初から、徳島県外で法人渉外となることが目標でした。しかし、当時は、女性の法人渉外はなかったことより、イメージがでず、目標に向け具体的に何をすべきか悩ん

でいました。そういった中、上司・先輩にアドバイスをいただき、自身の目標に強い思いを持つことができ、研修や通信教育等で融資に関する基礎知識の向上に取り組むなど努力した結果、大阪で法人渉外となることが叶いました。当行初の女性法人渉外となれたことは私の誇りです。また法人渉外になってから苦労も多々ありましたが、上司や同僚のフォローにより自分が描いた法人渉外をやり遂げることができました。

次世代の方々へのメッセージ

私は、より高いステージで活躍することを目標としていますが、結婚・出産を経て、家庭を持った今ではワークライフバランスの充実が必要不可欠です。多様な働き方に対応するためには、「会社の制度・風土」、「周りの方の理解・協力」が重要だと考えますので、会社選びの参考にしてみてください。ちなみに当行はワークライフバランスを両立しやすい会社です。



家族で休日

上司からの声 角田さんは入行後、営業店での内勤業務、渉外業務、役員業等、幅広い業務を経験し、その経験を活かし本部で仕事をしてもらっています。また業務だけでなく、結婚や出産、子育てを通じて得られた経験は、角田さんの価値観や考え方の幅を広げることにつながっていると感じます。これからもますます活躍されることを期待しています。

代表者からの声

株式会社徳島大正銀行
 代表取締役頭取
 板東 豊彦さん



当行では以前より、子育て、家族の介護や看護、本人のリフレッシュのための休暇制度導入など、働きやすい環境整備を進め、「プラチナくるみんプラス」[えるぼし(3段階目)]などの認定をいただいております。引き続き、職員の皆様の様々な事情に配慮し、仕事と家庭との両立が可能で働きやすい環境整備、職場風土づくりを行い、女性が輝き、そして真に活躍できる会社を目指しております。

事業所からの声

女性従業員が活躍する取り組みはありますか？

当行では、「早帰り日の設定（全行での定時退行促進）」、「時間外労働のガイドライン設定（半年間の時間外労働の目安を設定）」などによる時間外労働の削減、「連続休暇やリフレッシュ休暇」など休暇を制度化し、有給休暇の取得促進をするなどで家庭との両立をしやすい働き方のできる職場づくりを行っています。
 ※1 か月時間外労働時間平均：8時間
 ※有給休暇取得率：73%

その他にも多様で働きやすい職場環境を整備してきた結果、男性と女性の平均勤続年数は、ほぼ同じとなっています。

女性活躍のための取り組みにより、事業所で起きた変化を教えてください。

当行では、女性行員が育児休業から復帰しやすい工夫を行っています。具体的には、育児休業復帰時に、お子様の送迎等を考慮した店舗への配属などを心がけています。また、育児休業復帰時研修を行い、育児休業

中の行内ルールの変更点などを理解してもらい、スムーズな復帰を応援しています。

こうした取り組みにより、女性行員からは、職場復帰に対する不安が軽減されたとの感想もいただいております。また当行では、女性行員が自身のキャリアをイメージし、より高いステージで活躍できるように、キャリアデザイン研修などを開催し、女性行員のチャレンジを後押ししています。取り組みの結果はまだこれからですが、今後、女性管理職比率の向上を目指しています。
 当行の女性管理職比率：16.3% > 金融業平均 13.9%

今後、より女性が活躍するためのアイデアはありますか？

当行では、女性が働きやすく、活躍できる職場・組織づくりを目的として、「女性行員によるプロジェクトチーム(みらい☆NAVI)」を設置しています。みらい☆NAVIでは、幅広い意見をフランクに集め、女性目線の意見を集約し、経営側に提言することで、積極的に多様な価値観や意見を組織として取り入れる仕組みとしています。



事務部 部長 三間 康史さん

女性活躍を推進するにあたって、あなた自身が感じた課題や苦労は？

女性職員が仕事をする上で目標を持ち、ビジョンを描ける職場環境を作っていくことが最も重要です。この職場環境(社風)は全役職員が作っていくものであることを忘れず、日々の業務を行っていくことが求められると考えます。